

■ 第26回創造性研究会報告 ■

創造性教育に関する実践的研究
—小学校における創造性教育の実践と効果の測定—

講師： 弓野憲一 日本創造学会会長 静岡大学名誉教授
塩田真吾 日本創造学会会員 静岡大学教育学部専任講師



10数年前に「総合的学習の時間」が新設されたとき、教育目的として「生きる力の育成」が掲げられた。しかし「生きる力」が「創造性」を含むコンセプトであるとする明確な定義はなかった。そのために「問題の設定」や「解決」を目標とした「生きる力」は単なる「元気」や「がんばる」という言葉に置き換えられて指導が行われてきた。

学習には「学び」と「創り」がある。東洋や日本では「学び」に重点が置かれ、「正解」を求める指導が長年行われてきた。それゆえ、教師が創造性を意識するのは、図画工作や総合的学習程度であり、英国のように全教科を通じて創造性を育てるとする指導はほとんど行われていない。そこで弓野、塩野らは、研究者、大学生、院生、小学校教員、NPOなどからなる「学校創造性教育研究会」を立ち上げ、小学生を対象に創造性に関する実験教育を開始した。創りには「私」が強く関わることで、創りを奨励する中で出現する個々の所産がその子の創造性であること、そして、誉めることで創造性は伸び、失敗と試行錯誤がその子を強くさせるとの要点が報告された。

事例として、千葉県の小学校の協力を得て、アイデアに対する意見、考える必然性、出題者になって問題文を作成するなど、積極的に工夫を奨励し、さらに創造性を伸ばす誉め方などをクラスに導入することによって、一応の成果が出始めている。主な評価法として、1. 創造的態度、2. 創造的行動、3. 自尊感情などの評点評価が紹介された。創造的授業力として、1. 創造的教育への興味の喚起、2. 創造技法の理解、3. 創造的授業の意欲の喚起が必要と指摘した。今後は、学校教育以外の子供の学びにもメスを入れることと、教員、教員養成の場に創造性教育の意識を高めていきたいとの抱負を語った。

会場の会員からは、学外での類例、英国での結論が不定の授業例などが紹介された。また、成功事例を重ねることで、文科省に意識を持たせるべきなど、現実的方法について助言があった。

2013年5月6日日本経済大学（渋谷）にて開催
（報告：田村新吾任命理事）

日本創造学会論文誌Vol.16(2012) 論文賞受賞者

2012年度日本創造学会論文誌Vol.16における論文賞は下記の方々を受賞されました。学会賞授賞式は10月26日（土）研究大会開催時に行われる会員総会にてとり行われます。

論文タイトル： 2×2欲求マトリクス -心理的価値に基づく利他的コンセプト創出法-
筆 者： 麻生陽平、白坂成功、保井俊之、前野隆司
所 属： 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科

論文タイトル： TTCT創造性テストによるアイデアマラソン研修の創造性開発効果の分析
筆 者： 樋口健夫、由井蘭隆也、宮田一乗
所 属： 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科